

1945年7月9日 岐阜空襲の日:

今、私たちは「平和の鐘」を鳴らそう!



「崇福寺」には8人が集まり住職の話の後、鐘をついた。☆住職の話では「平和とは何か? 仏教にヒントがあるか考えてみました。三宝(仏・法・僧)の中の「僧」とは、「和合する僧の集団」をいいますが、これがまさしく平和だと思います。和合を保つには「律」=生活の規則を守ることが求められ、「律」をまもる事で様々な争いをなくせます。なぜなら規則を守るとは「自分勝手な考えをなくしていくこと」だからです。日常生活の中で

「自分勝手をなくす」事が平和へとつながる第一歩となるでしょう。順番に鐘をついた帰り道・・・少し遅れて見えた近所の女性の話では、徹明町で岐阜空襲にあい、焼夷弾の中を家族で逃げ延びた経験を持っている。当時11才だったので記憶は鮮明で、これまで体験談を小中学校で話してきたという。九条の会でもこの話を聞く機会をつくりたい!



「専応寺」では、いつものように絵本や新聞の展示があり、☆お庫裡さんとの話で「平和の鐘」は多くの人に知らせるよう「防災無線などで知らせる」よう市に要望しましょう。
「真福寺」7人が集まって鐘つき・焼香などしました。
「真竜寺」☆住職の話「前の住職が戦争に対しささやかな抵抗をしたり地域の人を助けた」「寺の前の山裾に防空壕があった」「一度戦争になったら悲惨だからおこしてはいかん!」
「真性寺」近所のご夫妻も来ておられて、住職とお母さんにジュースをいただきました。
「覚願寺」でも、いつものように8時から鐘を突きました。
「妙徳寺」でも、鐘を突いてきました。

福島原子力発電所のトリチウム汚染水の問題点

★福島第一原発の事故から10年経った今も続いている放射性汚染水の問題! その原因は「トリチウム」にある。東電の発表では事故直後の2011年5月~2013年7月にかけて海に流出したトリチウム量は20~40兆ベクレルだが、現在、1200個のタンクに貯蔵されている汚染水120万トンに含まれるトリチウムは860兆ベクレルで、今なお、毎日150トンずつ増え続けているという。東電と政府はこれを【基準以下】に薄めて海洋放出するというが、問題は何か?

★トリチウムは重水素(D)ですが、化学的性質は水素(H)と全く同じで、通常の水素と同様、経口や呼吸、皮膚を通じて体内に入ります。体内でも普通の水と同様に血液や体液を通して細胞内の様々な代謝反応に関与し、蛋白質や遺伝子の中の水素にその成分として入り込みます。体内で「水」として存在する場合は体外に排出されるのですが「細胞の構成成分」として取り込まれると分解されて水になるまで容易に代謝されず、長期間体内に留まり、少なくとも15年以上? その間、トリチウムは自身を安定化するためにベータ線を放出しつつ自身の不安定な中性子を安定化していきます。これがいわゆる『体内被爆』となりますが、遺伝子:DNAに取り込まれるとトリチウムの崩壊と共にDNAの崩壊:染色体異常などが起こります。特に問題なのは子宮内胎児への影響です。胎児が奇形になるだけでなく、死産、早産、流産など、様々な影響があると思われます。

★トリチウムが放出するβ線はエネルギーが低いために体内被爆という点では過小評価されがちですが「生体分子に取り込まれ、その構成成分の破壊による生物への悪影響」が重大問題なのです。

長良・岩野田
九条の会だより

No.171
2021年
7月号

事務局連絡先:林
090-6769-9809



会員のみならず、今年もカンパを有難うございます。三十六名の方からカンパして頂き現在、手持ち合計十万一千円です。今後もある限りの活動を続けてまいりますのでご支援の程よろしく。